

《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報が発令され、流行が継続中です。
- 感染性胃腸炎が神奈川区で警報レベルです。
- マイコプラズマ肺炎の報告が昨年と比べて増加が続いています。

全数把握の対象

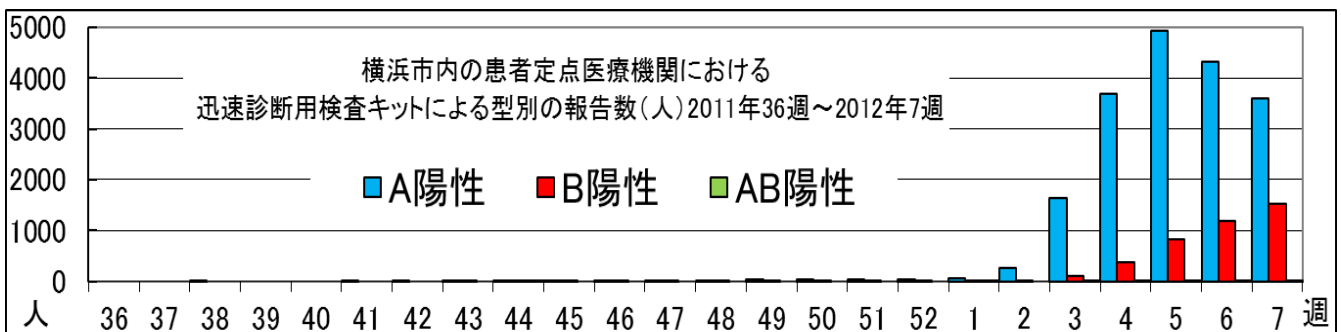
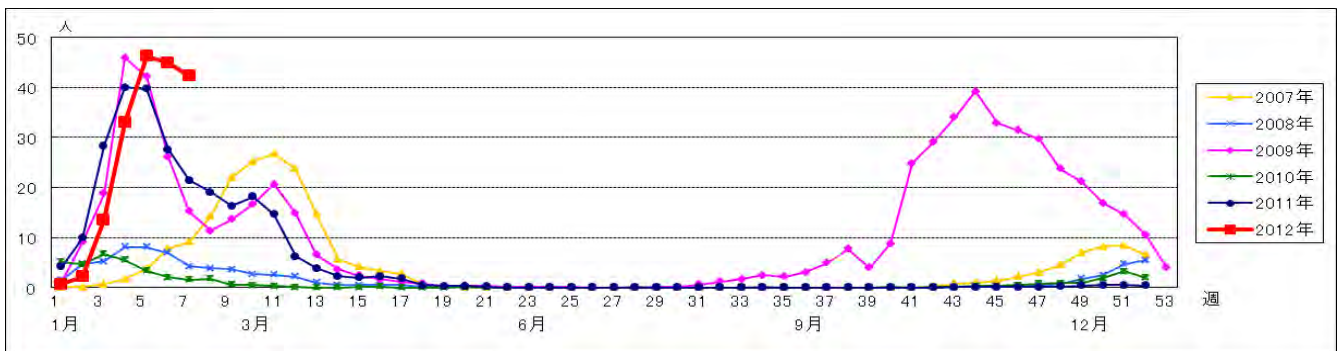
- 1 レジオネラ症:1 件の肺炎型の報告がありました。共同浴場等の利用はありませんでした。さらに感染経路等調査中です。
- 2 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):1 件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 3 破傷風:1 件の報告がありました。国内での創傷感染が推定されています。
- 4 風しん:1 件の小児例の報告がありました。予防接種歴 1 回あり、風しん IgM 上昇を認めています。

定点把握の対象

- 1 インフルエンザ:第 4 週に市全体で定点あたり 33.02 となり、警報発令基準(定点あたり 30.00)を超えました。第 4 週での警報発令は昨シーズンと同時期です。その後第 5 週から 3 週間連続で 40.00 を上回る流行が継続しており、第 7 週では 42.28 となっています。迅速キットの結果は徐々に B 型が増加し、第 7 週では 3 割程が B 型です。横浜市衛生研究所における、定点医療機関からのウイルス検出結果では、AH3 型 67 件(72.8%)、B 型(山形系統)9 件(9.8%)B 型(ビクトリア系統)8 件(8.7%)、B 型(解析中)8 件(8.7%)でした。また、市内で分離された AH3 型ウイルス 68 株のワクチン株に対する抗原性を調べたところ、HI 試験で、4 倍が 5 株(7.4%)、8 倍が 40 株(58.8%)、16 倍が 23 株(33.8%)でした。

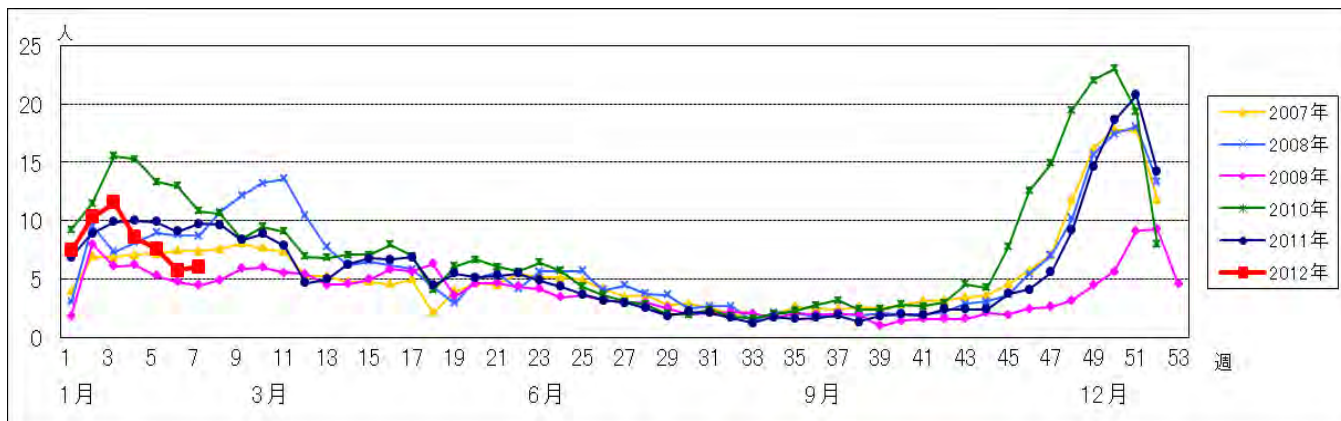
◆横浜市衛生研究所:インフルエンザ流行情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2011.html>

週	日
第 4 週	1 月 23~29 日
第 5 週	1 月 30~2 月 5 日
第 6 週	2 月 6~12 日
第 7 週	2 月 13~19 日

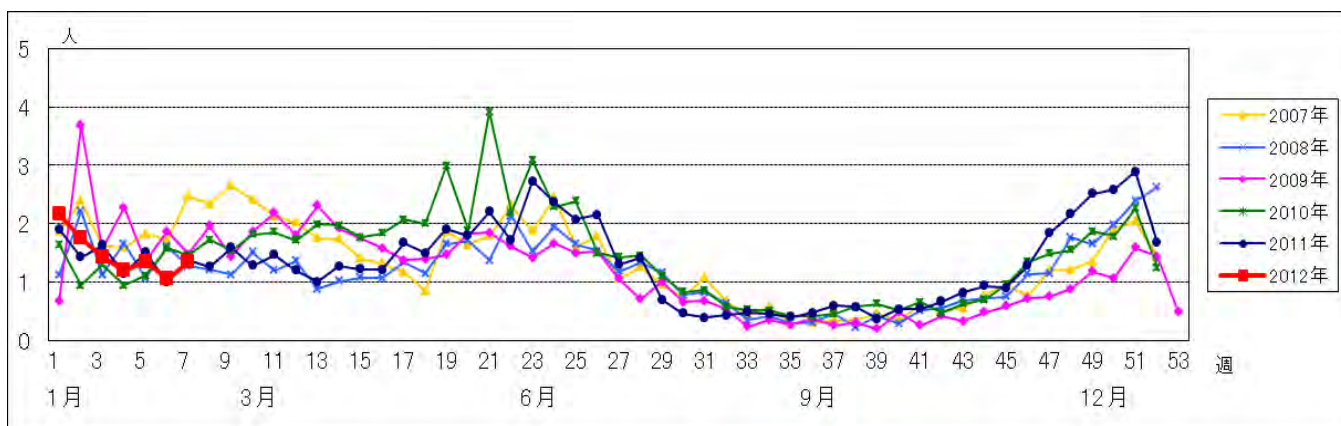


- 2 **感染性胃腸炎**:市全体で昨年末に流行がみられましたが、第7週では6.01と落ち着いています。しかし、神奈川県では徐々に低下傾向にあるものの、第7週で12.83と、終息基準値の12.00をわずかに上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-vobou.pdf>



- 3 **水痘**:市内全体では、第7週1.34と落ち着いています。瀬谷区5.75で注意報レベルとなっています。



- 4 **性感染症**:1月は、性器クラミジア感染症は男性が16件、女性が15件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が1件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が3件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2~0.6程度で推移していましたが、第1週1.10、第2週0.92、第3週0.98、第4週0.78と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第1週では定点あたり2.00、2週1.00、3週2.33、4週1.33と、前シーズンの第1週0.00、第2週0.00、第3週0.00、第4週0.33を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:1月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症9件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>